

A-12 タケノコ掘り

■「一人一人にそれぞれのフツウ」

■自分で感じ・考え・選び・決める・行動する

■視覚的・具体的・肯定的なコミュニケーション

取組み+A9:H22	①健康・生活	②運動・感覚	③認知・行動	④言語・コミュニケーション	⑤人間関係・社会性	家族支援	地域支援
オリエンテーション	■タケノコがどこに、どんな風に生えているか思い出す・考える。	■聴覚、視覚でタケノコ掘りについての情報を得る。■一度の情報でわからない場合はスタッフから再度視覚支援ツールをもちいるなどして説明を受ける。	■過去の経験からタケノコ掘りを思い出す。	■初めての子は、どのようなものか他者に教えてほしいと頼む。■頼まれたら教えてあげる。		■オープンフィールドのメニューに組み入れ、ご家族も一緒にタケノコ掘りを楽しむ。■フィールドでの子どもたちの様子、スタッフの様子を見ていただく。■スタッフとご家族とのラポート形成の機会とする。	
グループ作り				■友達、参加してほしい子を誘う。	■見通しが立たず不安な子に、丁寧に伝える。■楽しいから一緒に行こう、と励まし、誘う。■同じ目的を持った仲間意識が芽生える。		
道具を準備する		■道具を持ち、大きさ、重たさ、質感を感じる。■刃で切れる、硬い部分で打撲や骨折が起きることを知り、注意して扱う。	■過去の経験からタケノコ掘りに必要な道具を考える。ワーキングメモリの発達。	■一人では用意できない場合は、他者に応援を頼む。■応援を頼まれたら助ける。	■道具リストの作成。■一人で複数の道具を持っている子がいないか、何も持っていない子がいないか、幼い子が重い道具・大きな道具を持っていないかなどに配慮し、調整する。		
ルール説明			■「道具は引きずらずに、肩に担いで運ぶ」 「大きな道具を持っているので、人に当たらないよう気を付ける」などのルールを聞き取る。		■スタッフから「道具の使い方についてはスタッフの指示に従う」ことを伝える。■ルールを守る。		
移動		■道具をもって移動する。■一輪車も使用する。		■一輪車を操縦したい子は、言葉にしてみんなに伝える。■他者の希望に耳を傾ける。	■一輪車の希望者が複数いる場合は、話し合っでルールを決める。■小さい・弱い・遅い子が排除されないよう配慮し、調整する。		

竹林に到着後、タケノコを探す		<ul style="list-style-type: none"> ■視覚、聴覚、嗅覚、足の裏の触覚などに感覚を集中させ、タケノコを探す。 ■竹林の不整地・斜面を移動する。■転倒しないように注意し姿勢を保持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■タケノコの先端を発見したとき、「タケノコだ！」と認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■タケノコを発見したら「タケノコあった！」と言葉にしてみんなに伝える。 		<ul style="list-style-type: none"> ■竹林側をウォーキングしているかたがおられたら、あいさつを交わし、可能であれば相互理解につながる会話をします。
タケノコを掘る	<ul style="list-style-type: none"> ★スタッフは、スコップを深く刺す際に、足を怪我しない扱い方を伝える。① 端の握り（ループ）部分を両手で持って振り下すと足の甲に刺さる。② 一旦地面に刺したスコップをさらに深く刺すために両足でスコップの肩部分に飛び乗ると、バランスを崩して転倒する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■角スコップで掘るための姿勢を保持する。■生え方によって立ち位置を変える。■タケノコの地中部分をイメージし、■大きさや感触を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■角スコップから伝わる衝撃や触感から、角スコップの先にあるものの硬さをイメージし、■力の入れ方を調整する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■「硬い」「大きい」などタケノコについての情報、「もう少し」「まだまだ」など掘っている状況、「疲れた」「楽しい」など感情を言葉にして他者に伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ■情報を視覚的・聴覚的に取り入れながら、自分の動きを調整する。 	
他者に頼む・他者を助ける			<ul style="list-style-type: none"> ■硬くて、これ以上自分の力だけでは掘れない状況を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■助けてほしいと他者に頼む。■助けを求められたら応じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分一人の力で掘れなかったことを自覚する。■他者を助けることが出来る自分を知る。 	
採れたタケノコを数える			<ul style="list-style-type: none"> ■各々が採ったタケノコの本数と総重量を計る。■大きさと重さが比例するか、考える。■大きい順に並べ、■秤で重さを計って検証する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分が採ったタケノコの本数を数え、総重量を計り、■言葉にしてみんなに伝える。■また、集計用紙に記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分が採った数・重さを他者と比べる。■「今日のタケノコ掘りで、誰が一番偉いのか？」というテーマで話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★一番たくさん採った子は能力の高さを評価されることで自信を得る。そのことが「一人一人にそれぞれのフツウがある（数値化による序列化を行わない）」という基本的な考え方とどう共存するのか、スタッフ・子どもたちと議論を繰り返したい。他者との比較によって優越感を得るのではなく、自分自身が課題を乗り越えたことに満足感を得られるようにするにはどうすれば…？！
拠点に持ち帰る				<ul style="list-style-type: none"> ■掘ったときの感想を、参加していなかった子どもたちに言葉にして伝える。■他の子の感想にも耳を傾ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ■次回、タケノコ掘りに参加したいと思う子ができるように、プレゼンテーションする。 	
片付け		<ul style="list-style-type: none"> ■道具の泥を落とす。■道具リストに準じて、道具があるか確認し、■所定の場所に道具を収める。■疲れているので怪我をしないよう・させないよう注意する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■自分がどの道具の泥を落とすのかを言葉にしてみんなに伝える。■他者の意思表示に耳を傾け、■みんなで調整しながら、安全に片づける。■借りた道具を返し終えたら、担当スタッフ全員でお礼をいう。 			
家に持ち帰り、食す						<ul style="list-style-type: none"> 家族から感謝される。褒められる。タケノコを調理し家族で食す。

